

Open Mobile Alliance が顕著なマイルストーンで 2006 年を閉幕

OMAWorld2006 イベントと同時に年次総会開催

米国ワシントン DC - (MARKET WIRE) - 2006/12/14 -国際仕様制定組織 Open Mobile Alliance (OMA)が初の業界全体の規模のイベントを開催し、大手技術企業トップらが将来の標準開発に影響する標準展開の課題や、市場を牽引するイノベーティブな新技術の評価を行いました。OMA はまた、Interoperability (IOP) Program による 1000 番目の製品実装テストが行われたことを明らかにし、Candidate Enabler Release (CER)として Charging Version 1.0 と Download over the Air Version 2.0 の一般利用可能化を発表しました。

「Charging Version と Download の CER リリースで 2006 年を終えることで、コンテンツ配布と課金デプロイメントを改善することができます。この新リリースや、過去 4 年半にリリースした多くのイネーブラの成功が、我々の足がかりとなることを期待します」と、OMA 会長の Jari Alvinen は語りました。「来年の 5 周年が近いため、今こそ第一線の技術企業トップをお招きし、我々の仕事全体、標準展開に対する現在の業界ニーズ、将来の方向性を見ていただくよい機会だと感じました。」

OMAWorld2006 は、OMA が主催する最初のそうした集まりであり、同じ場所で OMA 年次総会も開催されました。OMAWorld2006 では、各回 520 名の定員のセッションがひとつずつ行われ、11 の CTO(最高技術責任者)、リサーチ、デプロイメント、製品開発などのリーダーが集まり、標準展開の壁についての意見や、今後の標準開発に影響を与える技術の種類などについて話しあいました。火曜日開催されたプログラムでは、MIT Media Lab(<http://www.media.mit.edu/>)の Nicholas Negroponte の基調講演が行われ、Collins Consulting (<http://www.collinsconsulting.co.uk/>)の Ben Wood 氏と M:Metrics (<http://www.mmetrics.com/>)の John Jackson 氏がモデレーターを務める 2 つのパネル・セッションが行われました。

「先週モントリオールで行われたばかりの第 17 回 TestFest や、9 月にデュッセルドルフの TestFest-16 での 1000 回目の実装テストマイルストーン達成などの成果を、OMAWorld2006 の場で業界リーダーの方々と共有できるのは喜ばしいことです」と OMA IOP 執行委員会兼 OMA 副会長の Fred Harrison 氏は述べました。「我々の活動は 2002 年 11 月に第一回 TestFest で 2 つのイネーブラをテストしたところから、先週のイベントで 20 近いイネーブラをテストするまでに成長してきました。これらのイベントには、4 年間で 100 社以上のメンバー企業が参加し、2000 以上の参加者が訪れました。」

新しい 2 つのイネーブラ

OMA Charging 1.0 は、仕様情報生成・処理・転送のための柔軟でネットワークにとらわれないフレームワークを提供します。この仕様は、課金情報交換のインターフェイスとフローを定義します。長いビルド時間をかけたり、複数環境での複雑なインテグレーションをすることなく、既存のネットワークインフラにアクセスしたい運用担当者やサービスプロバイダなどに、新しいアプリケーションとサービスの迅速な展開をサポートします。イネーブラは、任意のサービスまたはアプリケーションからの課金情報フローを、既存の課金インフラを気にせずに調整するために、オンラインとオフラインの 2 つの課金メカニズムを指定します。

OMA Download Over the Air (DLOTA) 2.0 は、バージョン 1.0 でサポートされている機能を基盤とし、ベーシック HTTP より信頼性の高いダウンロード・ソリューションを維持する追加機能を提供します。着信音、画像、特別なアプリケーションなどユーザー操作でコンテンツをダウンロードするしきみを用意することで、バージョン 2.0 は、下位互換性を保証しつつ、任意のタイプとサイズのメディア・オブジェクトの柔軟なダウンロード・メカニズムを提供します。DLOTA 2.0 は、アプリケーション・レベル・プロトコルと動きを指定し、モバイル端末上のコンテンツとアプリケーションのトランザクションとライフサイクル管理を行います。ダウンロードされるコンテンツとは独立して動くことにより、バージョン 2.0 は、複数コンテンツ環境でのプロトコルの拡張性を高めます。また、関連した任意の DRM ライセンス情報、ダウンロード中のコンテンツ消費、中断したダウンロードの開始、夜の間不在ダウンロードなどの使用法を可能にするユーザエクスペリエンス制御などをサポートします。

OMA Charging 1.0 CER についての詳しい情報は、
(http://www.openmobilealliance.org/release_program/charging_v1_0.html)を参照してください。

OMA Download 2.0 CER についての詳しい情報は、
(http://www.openmobilealliance.org/release_program/dlota_v2_0.html)を参照してください。

OMA の TestFest Program についての詳しい情報は、
(http://www.openmobilealliance.org/testfest_overview/TestFest_Overview.html)を参照してください。

OMA の IOP Program でテストされた製品についての情報は、
<http://product.openmobilealliance.org/>を参照してください。

OMAWorld2006 についての詳しい情報は、
<http://www.openmobilealliance.org/2006agm/OMAWORLD/index.htm> を参照してください。

OMA Release Program (OMA リリース・プログラム)について

現在までに、OMA は、51 の Enabler Release を発表しています。OMA は、メンバー製品・サービスの実装ならびにイネーブラ仕様を評価する相互運用プログラムを継続的に行っています。明確な作業プロセスを通して、Enabler Release Program は、イネーブラごとに2つのキー・マイルストーンで成果物をあげるよう設計されています。Candidate Enabler Release(CER)では、製品やソリューションへの実装・相互運用性テスト可能な、承認されたオープン技術仕様を提供します。

Approved Enabler Release(AER)は、Candidate Enabler Release の中で、OMA の相互運用性プログラム(IOP)をパスした仕様です。IOP テストでは、OMA 内あるいはその他のメディア経由のいかなを問わず、異なるメンバー企業での実装間の相互運用性をテストします。

詳細は、以下のサイトをご覧ください。

http://www.openmobilealliance.org/release_program/index.htm

Open Mobile Alliance (OMA)について

Open Mobile Alliance (OMA)は、国、通信事業者、固定/モバイル端末の間で機能する相互運用可能なサービスを構築するオープン仕様を提供します。データ・サービスへのユーザーのニーズと市場の拡大に伴い、Open Mobile Alliance のメンバー企業は、新しくかつ増大する情報、コミュニケーション、エンターテインメント・サービスを取り入れることを余儀なくされています。Global Mobile Alliance には、ワイヤレス・バリューチェーンの全エレメントから貢献企業が参加しており、サービスおよびアプリケーションのタイムリーで効果的な導入に貢献しています。

Open Mobile Alliance (OMA)の名前およびロゴは Open Mobile Alliance の登録商標です。本記事に記載されたその他の製品名および企業名は、それぞれの所有者の登録商標あるいは商標名です。

お問合せ先:

Bobby Fraher
OMA Communications
+1.415.531.2680
bfraher@omaorg.org

資料提供: The Open Mobile Alliance